

当地域の景気動向

各調査機関が発表している当地域の景気動向をまとめました（2022年2月15日現在）。

①最近の管内総合経済動向（中部経済産業局）

<http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/doko.html>

（1月公表要旨）

管内の経済活動は、持ち直しの動きがみられる。

- ・生産は、増加の動きがみられる。（↑）
- ・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。（→）
- ・設備投資は、おおむね横ばいとなっている。（→）
- ・公共投資は、このところ弱含んでいる。（→）
- ・住宅投資は、持ち直しの動きがみられる。（→）
- ・輸出は、持ち直しの動きがみられる。（↑）
- ・雇用は、需給の緩和に引き締まりの動きがみられる。（→）

②愛知県の景気動向（愛知県）

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/0000088882.html>

（1月期要旨）

愛知県の経済は、景気動向指数（CI一致指数）は、足踏みを示している。

③中小企業景況調査（愛知県）

<http://www.pref.aichi.jp/sanro/keikyo/top.htm>

（10～12月期要旨）

中小企業の景況感、厳しい状況にあるが、改善の兆し
-来期も引き続き改善する見通し-

④東海3県の金融経済動向（日本銀行名古屋支店）

<http://www3.boj.or.jp/nagoya/kouhyou/getsurei.html>

（1月公表要旨）

東海3県の景気は、持ち直している。

⑤OKB景況指数（OKB総研）

<https://www.okb-kri.jp/cyousa/research.html>

（12月期調査要旨）

景気の水準：景気の水準は6期連続で上昇するも、前回調査と比べて伸びはやや鈍化。

個人消費は、緊急事態宣言解除や新型コロナ感染状況の落ち着きにより、改善傾向にある。一方、生産活動は、半導体不足や部品供給の遅れによる自動車関連の生産調整や、原材料価格高騰などの影響で弱含んでいる。

景気の方角：3ヵ月後の景況感は大規模な良化を見込む。特に個人消費は、経済活動の正常化に向け、政府等の各種消費喚起策に支えられ、大幅に拡大する見通し。生産活動も、自動車関連の挽回生産が期待され、大きく持ち直す見通し。